

生き者の終り

冷懺 静かに死 洗たく機も 本気で泣く

下いるの と静かに

よく幼いときからしている 二つ指 何中目元

そうか

機織 花で子く 生命のするものも終りか

ある

かきまひしり山さ雪子踏をたこたあふ

秋は同じふうにかきまひりく 走く

一せこかにみたらあひかきまひり 加あて

一生終る せいもだ 夏をぶうわし そり

一生を終る 生き物アハて ぼくがあひり

終りがあふ

玄宗皇帝も ふうき姫と かしあんとあふ

日中の過去の有名な人々 名をのこし 歌者

しあひ

山中にたたくか I P S も 胎動胎心 呼吸

しあひ 人何れもいふ言つていふか もし

そらであつても 遠い先のうとん

それには たた今 五ののちのり 守らて

いやだ

最近「エッセイ」を
読んだ

かく気がしないう

しないうのうちは心口
でうとくする

お不思議な事

早おして祀り
目かすめ「マニヤク

コニヤシトし
そして「同和」
心のうらみ

きく
それから又
バター

それが
なる

祀り
朝五時
ごろ

おむい
早い
月がさ
い

ラジ
解
又おむ
い

そして
行けた
おむ
い

言
行か
おむ
い

これ
終り
おむ
い

2020
1/8